# 中学歴史プリント（過去問類似）
# 弥生時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

**問1** 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。（2016年　岐阜公立入試　類似）

**1.** 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。

**2.** 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。

**3.** 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。

**4.** 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。

---

**問2** 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年　徳島公立入試　類似）

**1.** 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため

**2.** 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため

**3.** 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため

**4.** 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため

---

**問3** 日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年　神奈川県公立入試　類似）

**1.** 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。

**2.** 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。

**3.** 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。

**4.** 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。

---

**問4** 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年　群馬県公立入試　類似）

**1.** 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった

**2.** 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した

**3.** 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された

**4.** 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた

---

**問5** 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2026年　北海道公立入試　類似）

**1.** 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。

**2.** 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。

**3.** 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。

**4.** ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。

---

**問6** 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年　鹿児島県公立入試　類似）

**1.** 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。

**2.** 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。

**3.** 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。

**4.** 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。

---

**問7** 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲出山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。（2021年　香川公立入試　類似）

**1.** 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。

**2.** 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。

**3.** 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。

**4.** 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。

---

**問8** 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年　富山公立入試　類似）

**1.** 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため

**2.** 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため

**3.** 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため

**4.** モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため

# 答え合わせ・解説

| | | |
|---|---|---|
| **問1** | **答え 1**<br>**朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。** | 5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百済や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとしました。 |
| **問2** | **答え 1**<br>**魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため** | 邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。 |
| **問3** | **答え 1**<br>**奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。** | 当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。 |
| **問4** | **答え 1**<br>**青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった** | 弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穣を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。 |
| **問5** | **答え 2**<br>**赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。** | 弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。 |
| **問6** | **答え 1**<br>**稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。** | 稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。 |
| **問7** | **答え 2**<br>**稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。** | 弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲出山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。 |
| **問8** | **答え 1**<br>**中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため** | 当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとしました。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。 |